

Q：協力会社か。

A：2人は協力会社の方。

Q：もう一人はどうなったか。

A：不明。

Q：もう一人は東電の人か？

A：それもわからない。

Q：(AP通信?) 協力会社は病院に行った人のうち1人か。

A：2人とも

Q：海水モニタリングのデータで、23日からジルコニウムが出てきているのはジルコニウム製の被覆管が破損しているからなのか。また、23日時点でデータが出てきたのはこれまで調べていなかったのか。

A：東京電力の海水の調査について、欄が増えておりZrもあるのは、調べていなかったということではない。当初は時間もなくて要素を絞ってお示したのが、一応全部調べられるのでお出ししようということで、今回から出すことにした。ジルコニウムについては我々も注目しているが、被覆管からのものかはわからない。

Q：(TBS) 東電の発表では中性子線がこれまで2回測定されたと言っていたのが、昨日になって13回測定されたと言いだした。これを保安院は把握しているのか。把握しているとすればどう評価するのか

A：中性子線の計算の仕方が違っていたことによるもので、我々は連絡を受けている。東電で一定の計算方法を取っていた際中性子線なかったと言っていたのも承知している。測定された値は十分小さい値であり、自然界にもあるレベルと認識している

Q：(毎日新聞) 東電が一定の計算方法を取っていたというのは、適切な計算方法だったのか。それともよくない方法で方法変えたのか。また、48報でこれまでの作業員の被ばくのレベル一番高いと思うが、過去、爆発の際に負傷した者の被ばくも含めて、どういう状況で被爆したのかももう少し詳しく教えてほしい。さらに、4号のプールの温度あてにならないというのは100℃より下ということか。防衛省の値が本当に正しいのか。本当にそれでよいのか。

A：中性子線の関係で、換算係数を一部間違えていた。現在の方が正しい。

負傷者の被ばくについては整理してお答えする。使用済み燃料プール、防衛省の測定値を信頼するのが妥当。100℃はあてにならない数値。

Q：(日本テレビ) 3号機海水で冷却しているのを真水に変えるということだが、1～3号機炉心の冷却のため現在海水を入れていると思うが、どれだけ入れてその行先はどうなっているのか。入れれば入れるほど冷えると

思うがその中に止まるのか、どこかに漏れるのか、注水した海水の行先を教えてください。また、3号機復水系で真水を入れるというが、我々が報道で図を書くときどこにタンクがあってポンプがあってという図を後ほどでよいのでいただけないか。

A：海水を原子炉に入れたかというのは、原子炉の中に入って圧力が高くならないよう流量を加減して入れている。熱量をもって蒸発するという事の繰り返し。外に漏れているということはない。図については用意する。

Q：基本的に容量が決まっているので、気化しても圧が高まるだけだと思うが

A：漏れているとは聞いていない

Q：(朝日シンブン) 3号はこれまでも放射線量出ていると思うが、何ミリシーベルトどの値か示してほしい。なぜ地下1階がそんなに線量高くなるか教えてほしい

A：図は用意する。線量増加の原因はわからない。

Q：どういう原因が想像でもわからないか。

A：わからない。水に使って被ばくということなので、水が汚染されている可能性。

Q：NHK) 1号機でも何ミリSvというのがあったが、被爆線量という計り方をしているのか。タービン建屋以外でも放射線量高くなっているのでは。高くなるとどう作業に影響するのか。

A：今わかっているのは、3人ともカウンター計測できる機械をもって170mSvという値がでたということ。水に何かあるのか。今後作業は遮蔽等しながら進めていく。作業員の安全を確保しながらやるしかない。

Q：深い場所が散見されるというのはどこでどのくらいか

A：最近ご報告したいくつかの場所500mSvとか、それ以上。

Q：(産経新聞) 3号機地下で作業員が被ばくした水どこからきたのか。また残留熱除去系について、1～4号機今後復旧する見込みあるのか

A：水については、津波なのか放水なのかわからない。残留熱除去系はポイントで、これがうまくいけば重要な目的となるが、まだそこに至るまでの手順を踏んでいる段階で成果があったとは聞いていない。

以上。

暫定版

左

プレスレク概要
(第 50 報)

日時：平成 23 年 3 月 25 日 (金) 10:25～
場所：保安院第 4 会議室
対応：西山審議官

経済産業省

番号 251232

(説明)

<1 F 各号機の状況>

○1号機

- ・消火系から給水系炉心への海水注入切り替え済み。温度圧力コントロール調整難しかったが、現状は、温度低下、格納容器の圧力も低下、比較的安定した状況。引き続き監視が必要。
- ・海水注入は塩分、不純物あって腐食、詰まったりするのでなるべく早く淡水に切り替えたいと考えている。現在消防車つないで海水注入しているのを、消防車切り替えて淡水ラインに切り替えるライン準備している。準備できたらなるべく早く切り替えたい。
- ・使用済みプールはもともと発熱少ないので比較的問題少ない。引き続き、おそらく明日以降になるが使用済み冷却系から海水注入。可能であれば淡水に切り替えたい。
- ・電源、冷却系の健全性確認してなるべく早く電気を通すことをやっている。

○2号機

- ・炉心のパラメーター比較的安定している。海水注入を淡水に切り替える準備をしている。
- ・使用済み燃料プールこれまで何回か海水を注入している。蒸発量に応じて注入を継続している。可能であれば淡水に切り替える方針。
- ・電源、できれば本日中操の照明を点灯したい、計測用電源ケーブルも復旧したい。冷却系機器の健全性確認し、一刻も早く通用の冷却系回るようにしたい。

○3号機

- ・海水から炉心への注入行っている。
- ・復水移送ポンプを使って淡水を注ぎ込むことを計画して、ケーブルを敷設している作業員に事故が起こってしまった。
- ・なるべく早く淡水に移行したい。線量高いルートは使いにくい、水の処理もしながら、ルートを確立して淡水を注入したい。
- ・使用済みプールには 23、24 日にわたり海水を注入。今後は、現地の条件

が整えば、午後に川崎市消防局が東京消防庁の支援を得て放水実施。当然のことながら、タービン建屋の作業については、放射線量のサーベイを行いよく確認しながら作業する。

- ・黒煙については現在収まっていることが確認されている。
- ・電源については、計総系、冷却系健全性確認中。

○4号機

- ・原子炉には燃料なし。
- ・使用済み燃料プール ポンプ車25日06:05から注入継続している。
- ・本日の作業予定残留熱除去系海水ポンプ用の仮設電源を用意する。本来の計を使って海水循環復活させるその他の機器の健全性も確認

○5, 6号その他

- ・5号昨日残留熱除去系ポンプが自動停止。ポンプを取り換えて外部電源による冷却準備中。
- ・6号機外部電源による駆動にもっていきたい。
- ・共用使用済みプール 計測系電源、照明用電源復旧を計画。

<3号機タービン建屋での被ばく>

- ・作業員に影響を与えた水の測定結果について 通常運転中の原子炉水の放射線濃度の約1万倍。通常の原子炉水は、炉心にも触る形で沸騰し、タービンに送られてくるので多少放射線を帯びているが、ものすごく高い放射能ではないという前提でその1万倍ということ。1万倍ということは高い値ということにはなる。燃料棒毀損の可能性が高いのでそれが原因ということが考えられる。
- ・本日、保安院付森山審議官から東電保全担当責任者に対し、現場の保安の在り方について直ちに改善見直すように口頭で指示。具体的には、作業にあたり事前のサーベイが適切に行われていなかった。前日に水がなかったので注意しなかったというのは不適切。作業員の装備が不適切。靴の中に水が入るような装備。アラームが鳴っても作業を続けた手順にも問題あり。まずは口頭で指示。
- ・今回の場所に限らず、タービン建屋を中心に線量高いところがあるので、サーベイ調査を行って、それに適した装備を持っていくよう指導したいと思っている。

(質疑)

Q: (共同通信) 3号機の水たまり、炉水の1万倍で、燃料毀損の可能性高いということだが、3号機燃料、使用済み燃料どちらから来たかと保安院

としては考えているか。

A：両方ともあり得ると思っている。

Q：両方ともあり得る場合、原子炉建屋からサービス建屋に水が来るルートとしてはどのようなルートが考えられるか。

A：具体的にここでは描写しにくいですが、水として動いてくることはあり得ると考えている。

Q：動いてくるのが可能ということは、配管に破損があってくるということか。

A：今異常に申し上げられないが、破損しているのか漏れているのか今は分からない。

Q：(不明) この水のように、放射線の封じ込め機能著しく低下していると考えますが、見解如何。

A：原子炉のことなのか使用済みプールのことなのかははっきりしない。原子炉の方については、今のところ我々のデータ見る限り一定の閉じ込め機能はあると思うが、遠くまで放射線量がでていくことから、毀損している可能性もあると思う。

Q：(NHK) 海水から淡水に切り替えるタイミングについて、スケジュール具体的にあれば教えてほしい。3号機別ルート探すというが、1号機2号機に優先して行うのか。

A：3号機はいちばんあてにしていたルートが線量上がってむずかしくなった。1号機なるべく急がないといけないが3号機ルートを探すのに時間がかかると思われるので、同時並行的にやる必要がある。

Q：1号機急がないといけないというが今日行うのか。

A：できるだけ急ぎたい。

Q：(朝日新聞) セシウムあちこちで確認されているが、同じルートなのか。今回のプールの水に含まれるセシウムは、各地で飛散して落ちてきているものと同じか。

A：はっきりわからない。予測も難しい。

Q：放射線管理に問題があったというが、放管員が同行していなかったことについてどう考えているか。

A：基本的には放管員がついていければ確実性が高まる。人数に限りあり、その方の稼働時間限られるため、実際作業員のみでカウンターで計測するということがあっても仕方ないと思う。

Q：人員が足りないことについて保安院で人の手当てをすることを考えているのか。

A：今現在行っていないが検討課題だと思う。

Q：(読売新聞) 被ばく 昨日も質問したが、昨日いただいた図面の中で被

爆したポイント今日時点でもどこかわからないか。

A：わかるかどうか確認する。

Q：細かいことだが、原子炉建屋とタービン建屋の地下つながっているのか。

可能性の検討のためどういう構造になっているのか確認したい。

A：つながっている。自分も行ったことがある。

Q：同じレベルでつながっているのか。

A：階層については確認する。

Q：地下1階ということでしょうか。

A：地下1階のところでは原子炉建屋とタービン建屋は仕切りがある。

Q：水は入らないのか。

A：とりあえず壁はある。

Q：原子炉建屋にも地下はあるのか。

A：ある。

Q：地下何メートルあるのか。

A：確認する。

Q：(ダウジョーンズ [REDACTED]) 4号機残留熱除去系準備 今日にも電源で冷却開始したい、ということでしょうか。

A：電源入れてうまく動き出せることを期待したいということ。

Q：1, 4号機白煙出ていて3号機黒煙止まっているのか。3号機白煙止まったのか。

A：3号機白煙現在出ていない。

Q：国際尺度レベル5から6に引き上げる、冷温停止まで1か月かかるとの報道に対するコメント如何。

A：水蒸気25日6:20現在、現地で目視確認では、1, 2, 4号機で白煙。3号機はない。INESの評価5にあげると先日公表した。様々な仮定をもとに試算。1Fの事故引き続き判断、様々な検証の上INESの評価を確立したい。冷温停止はなるべく早くそうしたいが、何日間でということは申し上げられない。

Q：(時事通信 [REDACTED]) 3号機被ばくした者に、現場で東電の社員同行なかったということについてどう考えられるか。

A：それぞれの役割で最大限がんばっているどの会社の人かどうということとは関係ない。

Q：東電が関連会社の社名を公表しないが、公表することが有用だと思うが。

A：その点については考えたい。

Q：公表する予定があるのか。

A：いつ公表するという予定はないが、そういう意見があったことは受け止める。

Q：(中日新聞 []) 被ばく 水はいつ頃から把握していたのか、前日からあったのか。この水はどう処理するのか。けがはベータ線熱傷なのか、ガンマ線熱傷の疑いもあるのか。

A：水がいつ頃からあったかについてはわからないが、前回その場に行った時には水はなかったので、水に対する装備をしていなかったと聞いている。水はどこかへ動かすとか拭き取るという作業、その後除染して作業が継続できるかどうかということ、具体的には現場で検討していると思う。症状、ベータ線熱傷と聞いているが放医研で判断される。

1階2重扉でつながっている。原子炉の方が負圧圧力低くなっている。原子炉の方に引き寄せられるようになっている。

Q：(ブルーム []) 500t注水の状況どうなっているか

A：昨日3号機使用済みプール燃料もともと500t注水の予定が120t注水で線量高い水たまり発見で止めている。使用済み燃料プールへの注水必要なので、川崎市消防局による放水実施するかどうか検討する。

Q：ポンプの作業中断して放水するという事か。

A：復水移送ポンプは炉心冷却関連。

Q：復水移送ポンプの作業を優先するので4号機への放水を見合わせるということだったと記憶しているが。

A：どちらを優先するかということ、作業環境が整えられること等条件がある。今ここでは言えない。

Q：被ばくした2名は関電工の職員、1名は関電工の関連会社という話があるが、保安院から身元を明らかにできないか。

A：明らかにできない

Q：(レスポンス [])：1人は長靴、2人は短靴だったということで、長靴の人はあまり被ばくしていないというが、こうした作業で短靴ということとは考えにくい。どのような作業をしていたのか。

A：よくわからない。

Q：放射線がある前提で装備を整えるべきだと思うがどう考えるか。

A：考えていただろうが恐らく御本人たちの予測に反したことが起こったのだと考える。

Q：(フリーランス []) 現場の原子炉の状況 パラメーターこれですべてなのか。他にありとしてそれらについて公開することができるのか。現在得ている測定数値について保安院として現場の状況把握するために十分であると考えているのか。現場から得られている数値の種類頻度について教えてほしい。

A：プラントのパラメーター 持っているものは公表している、細かいものわ

かりやすさの観点で出していないものもあるかもしれないが、隠すつもりは全くない。膨大なデータでもあり・・・

Q：(遮って)細かいものでも紙の形で公表する意思があるのか。

A：もちろんある。

十分かという点については、電気がない異常な状態でこれまで図ってきた、計器の信頼性自体も疑わしい状況で、満足はしていない。計器の電源が復活して早く正しいデータ取れるようにしたい。

頻度について、我々把握しているものはできるだけ公表しているが。

Q：積極的な情報公開が国民の皆様の不安を軽減させる。

A：それは身にしみて分かっている。

以上。

(その後ぶらさがり)

Q：水たまりの核種分析、ランタンなどこれまでみられないデータが出てきたという評価でよいか。

A：これまで海水分析でも出てきた核種。核種について新規性のある情報ではない。

Q：1万倍という高濃度が新事実ということか。

A：そういうことになる。

左

プレスレク概要

(第53報)

日時：平成23年3月26日(土) 10:15~11:00

場所：保安院第4会議室

対応：西山審議官

(説明)

[各号機の状況]

・1号機は炉心への注水を、消防ポンプ車による淡水注水に切り替えた。それ以降、温度・圧力が下がって安定しているが、もともと原子炉が不安定な炉だったので今後も注視していく。使用済み燃料プールについては貯蔵燃料の発熱量が低いので、他のプールよりリスクは低いが、プール水が足りなくならないように注視していく。また、海水ポンプ等に使用する直流電源装置を用意すると聞いている。明日には冷却系からの淡水の注入を目指す

・2号機の原子炉は安定している。海水を淡水に切り替える作業を予定。消防ポンプ車を使用し1、3号機とは別のルートで注水する。理由はホウ酸を混ぜる必要があると考えているから。できれば中央制御室の照明を点灯したい。明日を目途に使用済み燃料プールへの注水を海水から淡水に切り替える予定。

・3号機の原子炉は安定している。復水移送ポンプを復旧させる作業で作業員が被ばくしたため、現在は消火系を使って真水を注入中。使用済み燃料プールは昨日、川崎市消防局が東京消防庁の支援を得て放水。他に消火系の電動駆動ポンプ健全性確認作業や、現場調査を実施し、使用済み燃料プールについては、明日を目途に海水を淡水に切り替えたい。当面、ケーブル復旧やその他機器の健全性確認を実施。

・4号機は、もっぱら使用済み燃料プールが焦点。コンクリートポンプ車及び冷却系から海水を注水してきたが、明日を目途に淡水に切り替えると同時に、コンクリポンプ車は状況に応じていつでも注水できるように待機。

5、6号機については、全体として一段落ついている。これから冷温停止を確実にしていく。供用プールは特段問題なく、水温は25日15:20時点で53℃。

[質問回答]

・水たまりの状況だが、1号機はタービン建屋地下の北西通路。線量ははっきりしない。2号機はタービン建屋地下の電気品室。線量は200~300mSv/h。

・高い線量の水を抜いて作業環境を整えるかが焦点。現地の保安検査官事務所長の話では、淡水注水に切り替えることが現場での焦点となっているとのこと。

・核種モニタリング情報だが、昨夜の会見にて、タービン建屋地下で採取した

水の核種分析結果を配布している。今回は、海水の核種分析結果が出ている。福島第一南放水口では、ヨウ素131が基準の1250.8倍という数字が出ている。

1250.8倍という数字は、500ml飲むと、人間の1年間線量限度である1 mSv/年になるという値で、ある程度の高い値となる。

今回も前回と同様、原子力安全委員会に意見を求めている。原子力安全委員会は、改めて今回のデータを評価の上、回答することとなっているが、恐らく前回と同じような回答になるのではないかと考えている。一般論でいえば、海洋中に拡散していくので海洋生物に取り込まれるときは薄まっていること、またヨウ素は半減期が短いので低減していると考えられるため、前回の見解は今回も当てはまるのではないかと考えている。

(質疑)

共同：1250.8倍という数値は、前回から比べて桁違いだが、なぜこのような数値が検出されたと考えているか。

回答：放射性物質が、発電所から空中を浮遊したルートと、流水で運ばれたことが考えられるが、それ以上分からない。いずれにせよ、文科省が沖合30 kmで実施している調査では変化はない。こちらの数値が安定していれば人体への影響は小さいと思われる。

共同：水たまりは4号機でも見つかっているが、情報はないか。

回答：4号機は津波の影響ではないかと思われる水が入っていると聞いている。新しい情報はない。

共同：2号機に関しても新しい情報はないか。

回答：ない。

共同：タービン建屋水たまりの水抜き作業の見通し如何。回収した水はどこに保管されるのか。それは既存の設備なのか。

回答：ポンプで抜いて発電所敷地外に出ていかないように保管される。保管場所の目途もあり、準備していると聞いている。排水作業は、1号機にて24日17:10から実施した。他は検討中。

共同：保管場所は既存の施設か。

回答：詳しく聞いていないので確認する。

NHK:ヨウ素だけ飛びぬけて高い理由はなにか。

回答：浮遊しやすい元素であることや含有比率もあると思うが、それ以上は思いつかない。

NHK:2号機でホウ酸を混ぜる意味はなにか。他号機では混ぜていないのか。

回答：ホウ酸は、中性子の動きをコントロールするために混入させる。1、3号機については、かつて海水ピットから海水を汲み上げて注水していた際

に投入した。

共同：海水サンプルの核種分析結果では、セシウム134が1.17倍、セシウム137が7.9倍となっているが、これらは前回と比べて変動しているのか。

回答：両核種を含めすべての核種で前回より上昇している。

共同：1号機タービン建屋水たまりの分析データが出ているが、海水か淡水か分析されているのか。

回答：聞いていない。わかり次第ればお知らせする

毎日：1、2、4号機のタービン建屋で水がたまったルートを説明願いたい。

回答：はっきり分からない。4号機は地下一面に水が溜まっているので津波の影響かと考えられるが、それを含めて正確なことは分からない。

毎日：3号機は井や配管からリークしている可能性を述べていたが、1、2号機もそう考えているのか。

回答：原子炉が使用済み燃料プールのどちらかだろうが、原子炉の可能性が高いと思う。ただ炉圧を見る限り、格納容器自体が割れて水漏れを起こしているとは考えられない。

朝日：現場で淡水化が焦点となっているという理由はなにか。

回答：新しい作業として精力を割いているということ。冷却の効率や管目詰まり、塩分の金属への影響等を考えると、なるべく早く切り替えたいと考えている。

朝日：1号機で原子炉が不安定になったのは海水の影響も可能性もありうるのか。

回答：原因ははっきりしないが、消火系の海水給水が難しくなってきたために淡水に切り替え、炉が安定してきた経緯に鑑みると、海水注入の影響も一因として考えられる。

朝日：1号機の水たまりの排水はどうやってどこに排水されているのか

回答：ポンプで復水器（蒸気を冷やして水に戻す）系統に入れていていると聞いている。

西日本：水たまりは原子炉建屋にはないのか。タービン建屋の地下には原子炉を冷やすためのポンプがあるとおもうが損傷はないのか。

回答：5、6の原子炉建屋で水があるのではないかと考えられている。損傷状況はわからない。

西日本：使用済み燃料プールそのものの破損は考えているのか。

回答：それを示すデータはない。プールから漏れているという認識はない。

西日本：100℃以下なのに注水を続けているのはなぜか。

回答：冷温になるまでは、蒸発によりプール水が減少し給水が必要になるため。

質問：1号機の水溜りの線量は分からないとのことだが、東電は昨夜200mS

vと発表していたと思う。この情報は入っていないか。

回答：本会見の直前に東電に確認したところ、不明とのことだった。

質問：海水から淡水への切り替え理由として、消火系の注水が難しくなったと説明があったが、水が入りにくくなったということか。

回答：圧力と温度のコントロールが難しくなってきたので、本来の水に戻した。

質問：1、3号機で消火系から消防ポンプ車を使って真水を注入しているが、これは暫定的なものなのか、十分な注水量が確保できないということか。原子炉建屋とタービン建屋をつなぐ配管でスクラム後水が循環していたものもあるのか。

回答：電気を使って安定的に冷却しないと冷温停止に至らない。消防車での通水は本来望ましい姿ではない、永続的に動くポンプのほうが冷温停止にもっていくためには望ましいということであり、今のもので支障が生じているわけではない。

質問：復水移送ポンプはどうしても動かさなければならないのか

回答：動けば望ましいが、だめなら他の系統でもできると理解している。

質問：原子炉建屋とタービン建屋をつなぐ配管でスクラム後水が循環していたものもあるのか。

回答：原則はスクラムしたら原子炉から水が来ないように蒸気や水を通す配管の弁は基本的に閉じられる。ただどこかの弁等に不具合があれば流れることもある。

読売：1号機の水たまりの核種分析だが、東電に聞いたら昨日の0:45には通報していたと言っていた。丸1日も公表が遅れたのはなぜか。

回答：私自身が知ったのは昨日の夜。我々が認識した時点で速やかに公表した。事業者の通報時間とのずれは手続きの行き違い。

読売：どこの手続きが滞っていたのか具体的に教えてほしい。

回答：紙として受領したが注意喚起がなかったので確認できなかった。3号機の動向に注意が向かっていたこともある。

読売：大事なデータがそのような取扱いになったことをどう思うか

回答：このようなことが再発しないよう、細かい確認をしていくことが重要と認識。

読売：海水の核種の発生源はどう見立てているか

回答：はっきりしたことは確認する

以上

左

暫定版

プレスレク概要

(第54報)

日時：平成23年3月26日(土) 15:19~16:10

場所：保安院第4会議室

対応：西山審議官

(説明)

[各号機の状況]

- ・タービン建屋の水抜きについては1号機から4号機それぞれ水溜まりが確認。現在までの対応は特に1号機で行われている。地下に水中ポンプを設置し、水を復水器のタンクに入れている。上部のマンホールからホースを通して行っている。1号機以外の他の号機の水については現在検討中。
- ・2号機については、淡水の切り替えが10:10に出来上がっている。
- ・持続可能な冷却機能を作り上げるために、残留熱除去系は本来海水を引き込んで原子炉の蒸気の熱を交換するものを確立していくことが望ましい。
- ・残留熱除去系はタービンのところにあり、そこが高い放射線量によって妨げられている。今は水を抜き、除染して作業を行いたい。
- ・その他の方法についても、たとえば、原子炉の系統で冷却系を構築することも代替案を考えて望んでいるところ。
- ・また、現地では各号機ごとに既存の機器、代替ポンプ、ケーブルや、予備品、発注などを行っていることを確認している。

(質疑)

共同 []：1号機で水を排水しているが、新たに水を供給することはあるのか。

回答：ない。

共同：代替はあるのか。

回答：ない。

共同：余熱除去系(RHR)以外の経路以外に水を選択肢などについて、図など用意してもらいたい。

回答：現地でも対策案は変わりうるもの。例えば、原子炉の補給冷却系などを組み合わせて冷やすなども聞いている。どこが使えるか臨機応変に行っている。

共同：どれが出来るのか。機器の総点検などの工程を組んで行っていくのか。

回答：水溜まり、機器が使用できるかなどの各ハードルを越えていく方法など

を検討している。

読売 (): 補給水系を動かしているとどこまでいっているか。また、残留熱除去系について建屋の中のどこなのかなどを教えて欲しい。

回答：残留熱除去系は原子炉建屋の中に配管があり、電源はタービン建屋にあって、タービン建屋に作業に行ったときに水溜まりがあった。補給水系が動かなかったので代りを探している。

読売：補給水系が動かないのはポンプまたは電源のどちらか。

回答：電源を通していく作業中に作業員が被ばくしたため使えなくなった。

補給水系の復水ポンプに電源を復旧する作業だったが、高線量のために電源が復旧できなくなった。消防ポンプから給水系を使って送っている。残留熱除去系は恒久的なものとしてあるべき選択肢の一つ。

読売：地下の水の原因はわかったのか。

回答：今以上に分かっていない。

共同 (): 1号から5、6号について前回から放射線量は何倍か。見解を聞かせて欲しい。

回答：即答できない。

共同：前回の見解では5、6号の地下に水はあったと言っていたが、ひと段落した今は高い線量はないものと考えてよいのか。

回答：特に燃料について問題があったとは考えていない。

共同：タービン建屋の水は推定できないのか。作業には問題ないのか。

回答：ないと思う。

NHK (): 午前中の海水について、ヨウ素はどこから海水に出たものか。

回答：組成から見て核分裂反応から出ているものと考えられる。原子炉が使用済燃料が源と考えられる。

NHK：どちらなのか。

回答：分からない。

NHK：排水溝など、どのようなルートから出たものと考えられるか。

回答：今は分からない。

NHK：3号機の地下の水溜まりの関連性について、どう考えているのか。

回答：知るだけの材料はない。

西日本新聞 (): ポンプ車により安定的な注入が行われても事故から2週間経っているが、(原子炉、使用済燃料プールは)どのくらいで安定すると考えているのか。

回答：普通の原子炉では、海水の熱交換を使えば1週間で安定。現在は作業を続けて、その後何も起こらないのかなどにより、安定の目途は難しい。

西日本：月、年単位でどうか。

回答：わからない。

〇〇：ホウ酸を2号機に入れるのははじめてか。

回答：はじめて。

〇〇：先ほどの海水の問題に絡んで、放水口は使われているのか。水を取り入れて出すところは、今どういう状況か。

回答：放水口へは電気がこない。通常の冷やすプロセスは出来ていない。

〇〇：1次系から地表面などから海水へ行く経路はあるのか。

回答：地表面、空中あるいは雨でながされての経路は考えられるが、そのルートはわからない。

テレ朝（ ）18日に1号機のタービンに水があったとあり、把握したのか。また公表しなかった理由を聞かせて欲しい。

回答：津波によるものとの認識。

テレ朝：線量について異常は出ていないのか。

回答：そのときは測っていない。

テレ朝：津波の水は認識していない。その後ポンプを取り替えに行った時に線量があった。その結果はどうだったのか。

回答：当時は口頭で60mSv/hと聞いていた。

テレ朝：当時、事故につながるといった認識はなかったのか。水があって、認識し、そこを応用しなければならなかったのではないのか。

回答：いまの60mSv/hの水の関係については作業の空間の線量として認識。3号機は、その情報が共有していたかは分からない。

テレ朝：海にながれている関連で、構内で雑排水などから流れる経路とかあるのか。

回答：技術基準上は外に出すことはない。

テレ朝：敷地内の雨を流すとかはないのか。

回答：一般の建物と同じようにある。

テレ朝：測っているのか。

回答：聞いていない。

毎日（ ）：24日から朝にかけてヨウ素が出ている。経路について地表面、空中、雨からのルートとおしゃっていたが、雨は降っていない、地表から行っていないなど、消去法から考えられることを教えてほしい。

回答：ない。

朝日新聞（ ）：1号機の60mSv/hはいつで、水そのものが高線量が判明したなど時系列を追って説明してほしい。

回答：20日前後ではないか。ポンプの作業する前に空間線量を測定した。